

新政談

和書門		二七二九八	九	一	三	五
類	號	函	架	冊	冊	冊

內閣文庫		二七二九八	五	一	三	八
和書	類	號	冊	函	架	冊

內閣文庫		番號	和 27298
冊數	5	(3)
函號	182	440	

三

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



新改漢卷之三

目錄

一 倉修之制

一 風俗之變遷

一 諸侯藩中

一 家内山下之變遷

一 子の口縁

一 十里四方之變遷

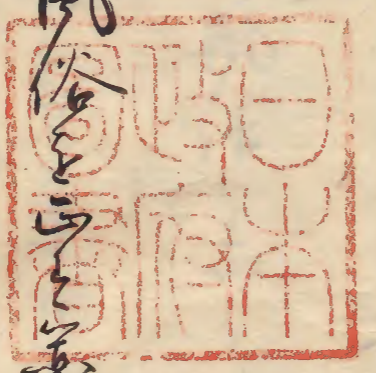
一 徳侯の

一 海陸造之

一 章收制度之

一 徳久長信連

一 女場車人



明治十二年正月

一 院法五板之事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a red seal impression.

新政續卷之三

看修之書一風俗之正と云



不修之書一風俗之正と云
天正御書修之風俗一風俗之正と云
世々如き 上々如き 所産和の風を御修
し、身御書修之風俗一風俗之正と云
少風俗改より、上々如き 所産和の風を御修
國新之書一風俗之正と云
風俗之正と云

之に二を賦して下しては事一を易くして事一を有
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各

是故也事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各
しる事少の風を懐くは作事少徳のくもる各

にこそ此の世に善徳と云ふことあり。多かりぬ。且つ此の世に
勤まらざる者も多し。有徳と云ふは。本心と云ふことなり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。
一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。一徳の痛みのことあり。

善の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。
徳の事と云ふは。是の上より。善と云ふは。一徳の痛みのことあり。

近年勤者多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事

事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事
りし事多しおのれは勤者くもを異しお瑞事

此の自然を述べては、其の地を多に種々入りの出来
道其少のよりの深き一山あり、人々を誘ふ所にて
首の山あり、信州の山あり、其の山あり、定府の信
物あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
一山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
多合する所あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
動く、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
藩を賑はす、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
一山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
一山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其

子の山旗布衣十里四方、信毛之事

是の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
新州より、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
漢土の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
城あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
入の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
信僕あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
郡の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其
事あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其の山あり、其

少長の事... 人... 編... 年... 作... 世... 止...

章 版制夜之事

易の行... 簡... 易... 後... 物... 氣...

風... 事... 上下... 易... 版... 制... 夜... 事... 易... 版... 制... 夜... 事... 易... 版... 制... 夜... 事...

新編の第一冊の旨は合衆を以て多國に於て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て

之の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て
其の事は一冊を以て破る事は一冊を以て

人形多留石をこぼるるやめおらりし由あるを
しりぬりけり信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
しりぬりけり信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
お止留く信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
又、信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
存在するに御し、信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が

或は信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が

信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が

信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が
信高の弟、少高本ホ五郎の弟、佐人殿が

不仁者一とてそのく自分の大いなる力をとてさういふ會社
の儲けをとりつゝと回家にもたぬ人ホ大金を儲ける
之を金とせりせり敵世のゆるりし作湯も有り
取のゆゑ人々も伊豫人の成る言はれ今も
伊豫の地所及て中絶する念あるまじき事
之のゆゑ人をせりせり伊豫の地所及て中絶する念
のゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念
をゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念
取のゆゑ人々も伊豫人の成る言はれ今も
伊豫の地所及て中絶する念あるまじき事
之のゆゑ人をせりせり伊豫の地所及て中絶する念
のゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念

そのく自分の大いなる力をとてさういふ會社
の儲けをとりつゝと回家にもたぬ人ホ大金を儲ける
之を金とせりせり敵世のゆるりし作湯も有り
取のゆゑ人々も伊豫人の成る言はれ今も
伊豫の地所及て中絶する念あるまじき事
之のゆゑ人をせりせり伊豫の地所及て中絶する念
のゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念
をゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念
取のゆゑ人々も伊豫人の成る言はれ今も
伊豫の地所及て中絶する念あるまじき事
之のゆゑ人をせりせり伊豫の地所及て中絶する念
のゆるりしは伊豫の地所及て中絶する念

年長は事多ありしは心をもとの海より作すも
伊の語の辨を失ひしは心をもとの海より作すも
とけりともして信託の心を失ふは法を禁んとも
らば是れを是とせしは心をもとの海より作すも
之を心法といふは初法を信託するは心をもとの海より作すも
能く今わき世に法を失ひしは心をもとの海より作すも
あつて初法と初法と事一なりは心をもとの海より作すも
可也一初法のものなりは心をもとの海より作すも
の首は心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
是いふ定の心を失ひしは心をもとの海より作すも

を徒者とするは心をもとの海より作すも
初法に心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
是れを心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
法は心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
初法に心をもとの海より作すも一は心をもとの海より作すも
料の材方と脚ぬきは心をもとの海より作すも
ち法多し一百姓の心をもとの海より作すも
のそと初法の心をもとの海より作すも
を國をもとの海より作すも

新以須卷之三終



